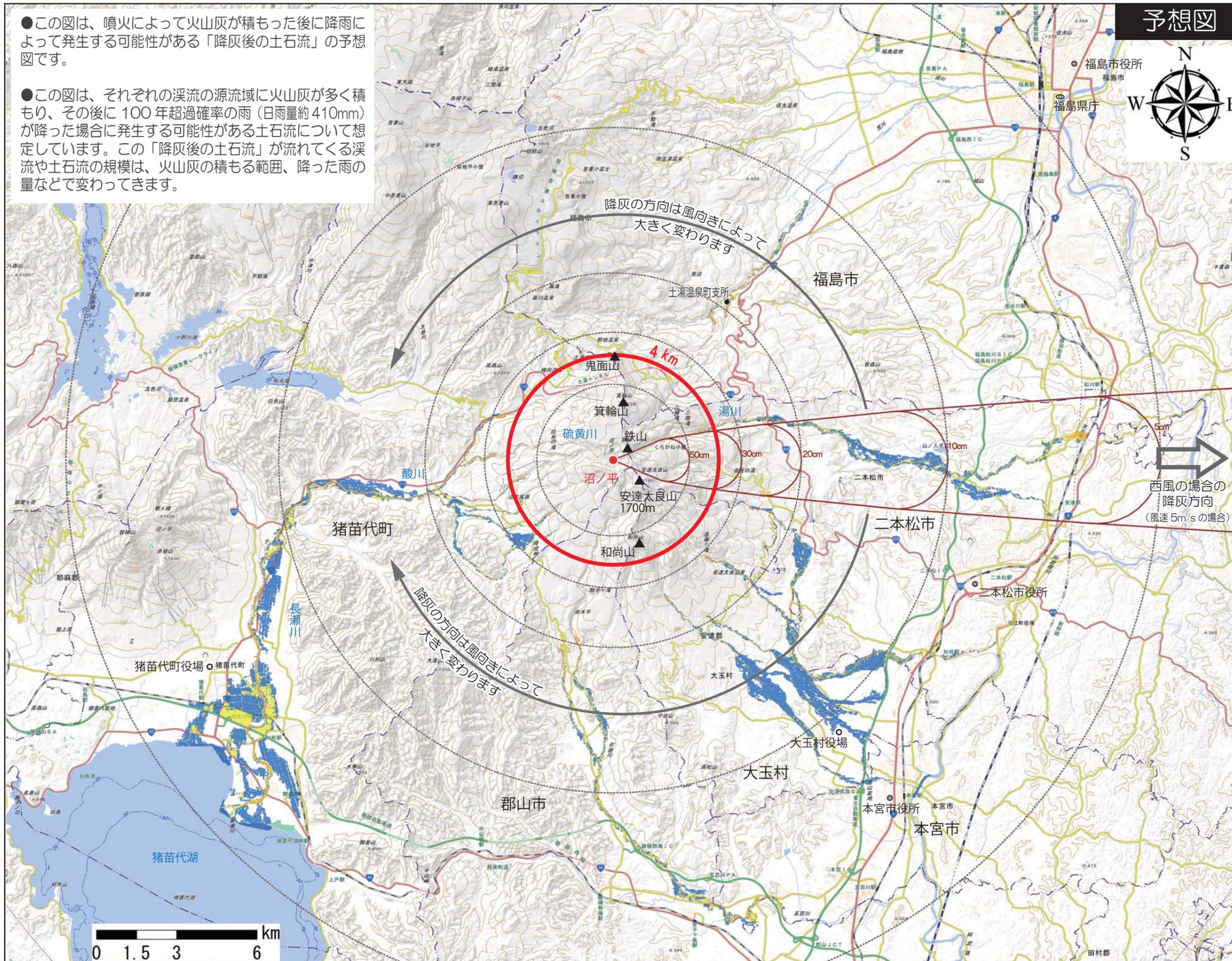


降灰後の土石流 ハザードマップ

山の斜面に火山灰が積もると、その後の雨で土石流が発生しやすくなります。

●この図は、噴火によって火山灰が積もった後に降雨によって発生する可能性がある「降灰後の土石流」の予想図です。

●この図は、それぞれの溪流の源流域に火山灰が多く積もり、その後に100年超過確率の雨(日雨量約410mm)が降った場合に発生する可能性がある土石流について想定しています。この「降灰後の土石流」が流れてくる溪流や土石流の規模は、火山灰の積もる範囲、降った雨の量などで変わってきます。



予想図



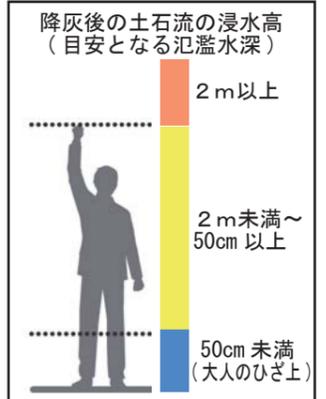
噴火によって山の斜面に火山灰が多く積もると、地表面が火山灰で覆われてしまい、雨水が地面の中へしみ込みにくくなります。そのため、たとえ少量の降雨であっても、地面にしみ込まなかった雨水が谷底に急速に集まり、一気に増えた水かさによって土石や樹木が押し流される土石流が発生しやすくなります。

1991年(平成3年)の雲仙普賢岳、2000年(平成12年)の有珠山や三宅島の噴火でも降灰後の降雨による土石流で多くの被害が発生しました。



(新燃岳(霧島山), 2011年)
火山灰が積もった斜面の断面
粒子が細かい火山灰によって、地表面が覆われています。

- 沼ノ平火口
- 噴石
- 降灰(西風の場合)
- 降灰(西風以外の場合)
- 県境
- 市町村境
- 国道
- 高速道路
- 県道
- 鉄道



「降灰後の土石流」災害予想区域図は、安達太良山に源流域をもつ溪流に100年超過確率(日雨量約410mm)の雨が降った場合に、各溪流内に降った水量とその水量で下流に運ばれた土砂が氾濫した場合の想定範囲を数値計算により算出したものです。